

**CIC Japan、日本生命の「Global Startup EXPO 2026」出展に協力
—共同運営するライフサイエンス拠点「O-Nexus」でサイドイベントを開催、
CIC Japan会長・梅澤高明、楽天メディカル代表取締役社長・小玉裕之氏が登壇—**



CIC Japan（本社：東京都港区、CEO：デニス・メドリンカ）は、2026年10月5日（月）～7日（水）に大阪で開催された「Global Startup EXPO 2026（GSE2026）」において、スポンサーとして参画した日本生命保険相互会社（以下「日本生命」）によるブース出展に協力し、共同で運営する大阪・中之島のライフサイエンス・イノベーション拠点「O-Nexus」をPRしました。

会期中は、CIC（Cambridge Innovation Center）創業者兼エグゼクティブ・チェアマンのティム・ロウ、CIC Catalyst APACディレクターの加々美綾乃がセッションに登壇したほか、「O-Nexus」で開催するコミュニティイベント「O-Nexus Wednesday Special Edition」をはじめとするサイドイベントを実施しました。

会場では、国内外のスタートアップ、企業、投資家、大学・研究機関など、さまざまなステークホルダーとの交流・意見交換を行い、スタートアップ・エコシステムの形成や、日本発のライフサイエンス・イノベーションのグローバル展開について議論を深めました。

■「Global Startup EXPO 2026（GSE2026）」セッションに登壇

Session 1 | 「バイオ・ライフサイエンス関連産業クラスター形成に向けて」



10月6日（火）には、CIC Catalyst APACディレクターの加々美綾乃が、「バイオ・ライフサイエンス関連産業クラスター形成に向けて」をテーマとしたセッションにモデレーターとして登壇しました。

本セッションでは、Nakanoshima Qrossを中心に、国内外の製薬企業、投資家、大学・研究機関、スタートアップなどが集う、グローバルなライフサイエンス・エコシステムの構築について議論。日本発の優れたサイエンスを世界で通用するビジネスへとつなげるためには、研究開発の段階から規制対応や医療現場のニーズを見据え、早期に事業化を見据えた設計を行うことが重要であると語られました。

また、イノベーションを生み出す環境として、ボストンに見られるオープンな対話や相互支援の文化に触れながら、Nakanoshima Qrossが目指す、研究開発から事業化までをワンストップで支援するエコシステムについて紹介しました。

さらに、日本が抱える超高齢社会という課題を医療イノベーションの機会と捉え、国境やセクターを越えた連携を通じて、社会課題の解決につながるライフサイエンス産業を育てていくことの重要性が示されました。

Session 2 | 「『ハブ』のその先へ：スタートアップが成長・飛躍できるエコシステムをどうつくるか？」



続いて、CIC創業者兼エグゼクティブ・チェアマンのティム・ロウが、「『ハブ』のその先へ：スタートアップが成長・飛躍できるエコシステムをどうつくるか？」をテーマとしたセッションに登壇しました。

本セッションでは、研究・資本・人材・企業・コミュニティ・グローバル市場といった多様な要素をどのようにつなぎ、イノベーションを具体的な成果へとつなげていくのかについて議論しました。

パネルディスカッションでは、「日本のスタートアップがどのようにグローバルで成功できるか」をテーマに、スタートアップの成長を支えるエコシステムのあり方について議論。技術に強みを持つ研究者とビジネス人材をつなぐコミュニティの重要性や、創業当初からグローバル展開を見据えた事業設計、外国籍人材や女性など多様な人材を取り入れることの重要性が語られました。

また、「Made in Japan」への信頼を日本の強みとして捉え、AIなどの新技術と掛け合わせることで、新たなビジネス機会を生み出せる可能性についても言及。人手不足とヒューマノイドロボット、AIを組み合わせた領域など、日本が抱える社会課題をイノベーションにつなげる可能性が示されました。

さらに、ボストンのMassRoboticsやフランスのStation Fなど、海外のエコシステムとの連携や、ディープテック分野における国際協力の重要性についても議論され、日本のスタートアップが国内にとどまらず、グローバルなネットワークを活用しながら成長していくための方向性が示されました。

■「Global Startup EXPO 2026」サイドイベントを同時開催

O-Nexus Wednesday Special Edition

Why Life Science, Why Now?— 日本発ライフサイエンス・イノベーションを世界へ



GSE2026最終日となる10月7日（水）には、大阪・中之島のライフサイエンス・イノベーション拠点「O-Nexus」にて、「O-Nexus Wednesday Special Edition」を開催しました。

トークセッションには、CIC Japan会長の梅澤高明と、楽天メディカル株式会社代表取締役社長の小玉裕之氏が登壇。「日本発のバイオイノベーションを世界へつなぐために必要な戦略とエコシステム」をテーマに、日本のライフサイエンス産業がグローバルに成長するための課題と可能性について議論しました。

セッションでは、楽天メディカルが取り組む「アルミノックス治療（光免疫療法）」の事業化・グローバル展開の事例を紹介。2013年の技術との出会いを起点に、グローバルでの治験やライセンス取得を進め、日本で世界初の承認を取得するまでの歩みが紹介されました。

CIC Japanは今後も、グローバルなネットワークと国内のエコシステムをつなぎ、ライフサイエンス領域における挑戦を支援していきます。日本発のイノベーションを世界へ、世界の知見を日本へ届けるエコシステムの形成を目指します。

【CIC Japan合同会社】

CIC は、起業家やスタートアップ企業の成長を支援するイノベーション・キャンパスの運営を世界5カ国11拠点で行うグローバルリーダー。日本では「CIC Tokyo」「CIC Fukuoka」に加え、ライフサイエンス特化型キャンパス「O-Nexus」の3拠点を運営。24時間365日利用可能で、日本語・英語の両方に対応した共有ワークスペースに加え、専門性の高いスタートアップ支援プログラムや多彩なイベントを提供している。

URL : <https://jp.cic.com/>

【O-Nexus（オーネクス）】

CICの日本国内3拠点目となるO-Nexus（Osaka Life Science Nexus by Nippon Life and CI C）は、大阪・中之島の未来医療国際拠点「Nakanoshima Qross」内に約3,100平米を有する、ライフサイエンス特化型イノベーションキャンパス。日本生命保険相互会社とCICの共同プロジェクトとして、創薬・再生医療・バイオテクノロジーをはじめとする国内外のスタートアップ、研究者、大企業、投資家、行政が立場を越えて集うコミュニティを運営している。URL : <https://www.o-nexus.jp/>

【日本生命保険相互会社】

生命保険事業を核としながら、Nakanoshima Qrossにおけるヘルスケア領域の新たな価値創出やエコシステムの形成に向け、スタートアップや多様なパートナーとのアライアンスを推進している。

URL : <https://www.nissay.co.jp/>